



茨城県地域臨床 教育センターだより

2020
Vol.34

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 令和2年6月1日発行(第34号)

茨城県地域臨床教育センター長就任にあたって



教授
鈴木 保之

専門領域 ■ 心臓血管外科

2020年4月初代センター長、島居徹先生が県立中央病院院長に就任され、後任のセンター長を拝命しました。昨年4月、当センター教授としてこちらに赴任してまだ1年しか経っておらず、さらに現在世界的なCOVID-19の感染拡大で日本でも感染終息が見えない大変な状況でセンター教員の先生方も日々忙しく対応に追われている状況です。

筑波大学附属病院・茨城県地域臨床教育センターは、地域医療再生計画の一環として、茨城県北・県央の地域医療体制の整備を最終目標として茨城県立中央病院内に2011年に設置されました。診療面では大学病院で実施されるような高度かつ先進的医療を提供し救急医療、がん診療の充実に勤め、2015年に産科の再開、ダヴィンチシステムの導入によりロボット手術も可能となっています。教育面では臨床研修管理委員会も整備され臨床研修評価機構の認定も取得し、研修医のフルマッチも実現しています。大学病院における高度治療、教育システムと県立中央病院の診療・教育が融合することにより、県央・県北の医療および若手医師の育成の中核施設となることが当院での使命と想います。

茨城県は医師少数県とされています。筑波大学卒業後、筑波を離れてから約30年経ち昨年4月に当院に赴任しましたが、それまで都立病院に10年、弘前大学に17年勤務してきて公立病院の特徴、大学病院の役割など肌で感じてきました。また、青森も医師少数県の一つで、県内の医師を充足させる為地域枠入学者数の増加などを行っていたことは茨城県と似ているところがあります。今は私が医者になった頃と比べて、初期臨床研修制度が整備され各病

院の情報、研修プログラムの評判など簡単に入手することができること、研修医の給料は保証され経済的に余裕があると思います。初期臨床研修施設を選ぶ場合、その後の後期研修の選択に関して、昔と比べて自分の考えをしっかりと持った医学生が多いように思います。水戸医療圏が医師少数区域であるということは赴任するまで知りませんでした。数年後にこの範疇から外れることになり、臨床研修委員会では地域枠の学生の県立中央病院での研修希望者が減ることを危惧しているようです。地域枠の学生が義務年限を消化する上で当院での研修にメリットを感じて研修を希望することがなくなっても、筑波大学の卒業生、自治医大の卒業生だけでなく、ぜひ当院での臨床研修を行いたいという学生が増えるような充実した研修を行うことが必要です。そのために各診療科が高度先進医療を行うこと、一般的な疾患にも幅広く対応することが求められています。さらに後期研修のプログラムを充実させることにより初期臨床研修医が継続的な研修を行える環境を整え、センターの教員の指導で研究面のサポートを行うことも若手医師の育成には必要です。また、若手をしっかり指導することで、指導する側も進歩していく筈です。コロンビア大学心臓血管外科スタッフの先生の講演を聞いたことがあります。コロンビアでは手術の執刀は全て心臓外科レジデントでスタッフは第一助手として手術に入るとのことでした。フロアからの「スタッフはそれで満足しているのか？」という質問に、満足しているし教えることで自分も進歩しているとの返答を聞いて感銘を受けました。もちろんアメリカの心臓外科のレジデントは通常5年の外科研修の後にかなり狭き門をくぐり抜けて採用された人たちで、コロンビアでも採用にあったては学術面・人間性を含めてかなりの時間をかけて選抜しているようです。私たちが医者になった頃、「手術は見て盗め・覚えろ」とは雲泥の差があると思います。

初代センター長の島居先生の後を受け、どれほどのことができるのかまだよくわからない状況ですが、センター教員、関係各位の皆様、より一層のご支援・ご鞭撻をよろしく願います。

茨城県地域臨床教育センター赴任のごあいさつ



助教

セイエド佳実

専門領域 ■ 小児科
(アレルギー、総合一般)

2020年4月1日付で赴任しました小児科医のセイエド佳実と申します。2010年に筑波大学医学専門学群卒業後、筑波大学附属病院で初期研修、後期研修ともに修了しました。これまでは筑波大学附属病院から筑波メディカルセンター病院、筑波学園病院で勤務してきました。

筑波メディカルセンター病院では特に救急疾患及びアレルギー疾患を研修してきました。また初の試みとして、低酸素性虚血性脳症により人工呼吸器管理が必要な児に対しての訪問診療を始めました。

筑波学園病院では恩師である故市川邦男先生の言葉で「アレルギー疾患にアレルギーを感じない医師を増やしたい」の思いを元に習得したアレルギー疾患への対応を強化し入院での経口負荷試験を導入してきました。まだ私は専門分野を持たない状況ですが、アレルギー疾患については特に勉強をさせていただきました。昔に比べてアレルギー疾患の有病率は上昇傾向にあるため、この地でも患者教育・対応強化ができればと考えております。また小児科は全身を診る科であり他科との協力が不可欠になりますが、



私が勤務してきた病院で大学病院以外では常勤医が揃っているところがあったため大変心強く感じます。

話は変わりますが、医師であり母である私は今まで3度の出産を契機に育児休暇や時短勤務でなんとか仕事を続けることができました。この度当院への赴任のお話をいただいた時はつくばの自宅から距離があるため正直ためらいがありました。子育て中の女性医師が仕事を継続していくには、周囲の理解と手助けが非常に重要です。一緒に仕事をする方はもちろん、家族、保育事業の環境が整うことで安心して勤務することができます。このことは子育て中に限らず、介護中や闘病中などあらゆる状況の方に当てはまることです。幸い嶋田先生並びに小児科の先生方の手厚い協力、理解があったため赴任する決断に至りました。

仕事があつても激務のため、自身のワークライフバランスに合わず離職を余儀なくされる方たちが働けるようにする体制づくりが今後進んでいくことを期待しつつ、サポートを受けながらも働き続けられる方が増えることを願います。

このご時世のため業務自体は減ってきていますが、周産期医療が軌道に乗ってきた今、地域の小児医療の拡充に向けて尽力していきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ <http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/chiiki/cyubyo/>



茨城県